

〈カントライは今年で 50 周年を迎えます〉  
**エヴァンゲリウム・カントライ**  
*Evangeliums-Kantorei*  祈りに支えられて 50 周年

〒251-0861 神奈川県藤沢市大庭 5529-8 シャルマンコーポ 404 小山方 Tel. 070-2834-4304  
 郵便振替 00100-3-21060

「朗読としての賛美」

内藤達朗

ダビデの賛歌「主は私の羊飼い。」（詩篇23篇）

東京四谷のカトリックの書店・ドン・ボスコ社に行った時、本屋さんの中に流れていた賛美を聞き、心に残ったので、書店の方に伺いました。

それは「詩篇唱和」というものでした。カトリックでは、賛美は、詩篇を賛美するのが重要として、まず、聖書の詩篇を賛美の歌詞用に翻訳しました。それが「典礼聖歌」で、そのために聖歌隊を編成し、賛美したものを収録したのが「詩篇唱和」です。その姿勢に感服しました。

それによると、詩篇のある一節を「答唱」として合唱で賛美し、続く節を独唱者が賛美し、そして、また、「答唱」が賛美され、また、続く節が賛美されるという、交互に歌う賛美です。その曲の趣が私にはとても礼拝の思いを備えるのに良かったので、そのテープを買ってきて、礼拝前の時間に流してきました。

また、ヘブライ語を勉強している時、日本人のラビの小辻節三氏の独習書の付録にテープで、詩篇をヘブライ語で、節つきで朗読しているものに接し、感動しました。自分でもその雰囲気ですべて詩篇23篇を朗読（詩句などを声高に読むこと）してみました。

詩篇には、最初の見出しに、「〇〇の賛歌」「〇〇の調べにのせて」のような記述があります。何



らかの曲を用いて賛美したものでしょう。

このように賛美は、聖書の詩篇などを曲に載せて賛美してきたようです。前述の「典礼聖歌」はそのような流れなのでしょう。

また、聖書神学を朗読の神学と言われることがあります。聖書は、その記者たちが出会った様々な出来事に神さまを実感して記したものでもあります。そして、私たちも、聖書を頭で理解するのではなく、聖書が私の生活で実体験されることが大事です。

その意味では、私たちの信仰生活は、一人一人が、その生活で経験した神さまの恵みを、思いを込めて聖書を朗読することでもあります。聖書のみ言葉を私の言葉として、告白し、朗読することが神さまを賛美することにもなるでしょう。

カントライの目指すところもそこにあるのかもしれない。

(狭山シャローム教会牧師)

バッハの声楽曲にコラール（賛美歌）は欠かすことができません。受難曲やオラトリオは、コラールが聖書朗読の合間にいくつも出てきて、信仰の告白や信徒の心情を賛美しています。モテットという独立した合唱曲の中でもコラールを中心にした作品が何曲かあります。とりわけ BWV227 『イエス、わが喜びよ』は「ローマ人への手紙 8:1 から 11 節」と J. フランク「イエス、わが喜びよ 1 節から 6 節」がそれぞれ一節ずつ交互に配置された名作で、カントライがドイツ・スイス伝道コンサートツアーの際は必ずプログラムに入っていたものです。<sup>x</sup>

こうして様々な声楽曲を演奏して来ると、バッハにもお気に入りの讃美歌があることが感じられます。先程挙げました、フランクの『イエス、我が喜びよ』、マタイ受難曲の冒頭に使われる『おお、神の罪なき子羊』、同じく S. ハイデン『人よ、その罪の重きに泣け』、ヨハネ受難曲にも使われている U. ヘルマン『心より慕わしきイエス様』、ルター『天にまします我らの父よ』、P. ゲルハルト『おお、世よ、汝の生を見つめよ』他にも、モテットやカンタータでよく使われる J. グラーマン『いざ、わが魂よ、主を賛美せよ』が頭に浮かびます。これらは宗教改革の時代、バッハより 100 年以上前から歌われていた、いわばスタンダードな讃美歌で、当然、教会の聴衆はその歌詞や旋律をほとんど暗記していたことと思います。バッハは讃美歌を用いる場面に応じて、節を選んで巧みに用いています。ですから、オルガンにせよ声楽曲にせよ、讃美歌を用いるということは福音を伝えるためには大変効果的な方法だったと言えます。

復活のカンタータの中で第 4 番『キリストは死の縄目に繋がれ』も、バッハお気に入りのコラールを全節用いたカンタータです。このカンタータのもとになった讃美歌を復活祭で会衆讃美をする教会は今でも多いのではないのでしょうか。カントライも以前このカンタータを何度か演奏した記憶があります。1705 年にアルンシュタットの新教会のカントールをしていたバッハは、10 月頃 4 週間の休暇を取り、400 キロも離れたリュベックまで徒歩で旅行します。目的は、聖母マリア教会のブクステーデの演奏を聴くためでした。ブクステーデの音楽に魅了されたバッハがアルンシュタットに戻ったのは 3 ヶ月後であったと言われています。それほどにブクステーデの音楽に衝撃を受けたのでしょうか。翌年 1706 年、ミュールハウゼンの聖ブラジウス教会の前任カントールが亡くなり、翌年 1707 年 4 月 24 日の復活祭記念礼拝で試験演奏としてバッハはこのカンタータを演奏、公募に合格し、ミュールハウゼンのカントールとなったといわれています。ということから、ブクステーデの大胆な転調や不協和音、楽曲構成などの影響をエネルギーにして作られた作品と言えましょう。

このカンタータにバッハが使った讃美歌は、歌詞、旋律共にマルティン・ルターの作とされている讃美歌 21-317 「主はわが罪ゆえ」です。讃美歌 21-317 は正確にはルターが新たに作り変えたもので、元の旋律は、讃美歌 21-316 「主は復活された」という、12 世紀にはすでに歌われていたドイツ最古の宗教民謡（ライゼン※<sup>1</sup>）です。元のメロディーはラテン語の復活祭の続唱（※<sup>2</sup>）「過ぎ越しの小羊をほめ讃えよ」です。カンタータの旋律は旧讃美歌 II-100 がバッハによる編曲で、そちらが使われていますので興味のある方はご覧下さい。ルターの歌詞は 7 節に渡っての凝縮された説教のようになっており、力強く具体的に、また教理的に、過ぎ越しの小羊として苦難を受けられた主の復活とそれにより死が完全に滅びたこと、主が勝利したことを語り尽くしています。この讃美歌はルターの最初の讃美歌集 1524 『エアフルト提要』で発表されました。それ以来多くのカントールが合唱曲、オルガン曲にしてきましたが、バッハもその一人です。一節から 7 節までを朗読するだけで各節に圧倒されます。

バッハは始めに前奏曲としてシンフォニア(※<sup>3</sup>)を短く置き、その後1節から7節までを各節、独立した曲で作曲しました。細かく各曲を分析することは控え、一曲目のシンフォニア(楽譜1)のみ触れてみます。ここにこのカンタータ全体が凝縮されているように思います。1小節から8小節はキリストの十字架がテーマになっており、ホ短調でその死の苦しみをたくさんの井とため息の呼応(3小節~4小節)、1ヴァイオリンとバスの下降形が黄泉にまで下られた主の死を表しています。ため息の呼応は、死に繋がれた主の重い足取りをも連想されます。この音形は第3曲の二重唱(第3節)のテーマの音形になっています。5~7小節には1ヴァイオリンに讃美歌のテーマが登場し、その後キリストの象徴である高音・2点ソへ上昇し、8小節からさらに上へと3点ドまで(12小節)上昇します。それに呼応するようにバスも8~10小節で下降した後、11小節にかけて上昇します。主が一度死なれた後よみがえられたことを形で表しています。10~11小節にかけての上昇には、ヴァイオリンとビオラに経過音(タイ)が使われており、主の復活により待ち望まれていた神のご計画の成就した、ということを示しています。そしてそれらの確信が12~14小節の終始計に表されています。とりわけ最後の和音はホ長調、キリストの栄光を表しており、第2曲(第1節)への賛美へと繋がっています。1節「主はわが罪ゆえ、死に繋がれしが、主はよみがえりて、いのちたまえり。われら喜び、わが主に感謝す。歌え、ハレルヤ、ハレルヤ。」

各曲とも、各節の歌詞に対応して、大胆かつ明瞭な音による説教になっており、各節末に置かれた「ハレルヤ」も、復活節の賛美には欠かさざるものですが、一曲たりとも同じではありません。第8曲は第7節の讃美歌をそのままに力強く讃美し、会衆賛美のように一同揃って信仰を告白し終わります。「(前略)キリストのみがまことの魂の糧、信仰はこれのみにより生きる。ハレルヤ」

讃美歌は会衆のためにルターが取り入れたものです。バッハはコラールを用いる達人でした。今回は新ためて、讃美歌の存在はプロテスタント教会音楽の基であることを確信いたしました。復活の主は心より感謝し賛美いたします。

※<sup>1</sup>ライゼン…ドイツ中世の讃美歌で節の最後にキリエ・エレイソンをドイツ語的にキリエライズと歌うもの。

※<sup>2</sup>続唱…グレゴリオ聖歌におけるゼクエンツィアのこと。ミサの式文が朗唱されたあとにつけられた、ハレルヤなどからその部分が発展し、自由詩の歌詞もつけられ、次第に独立していったもの。

※<sup>3</sup>シンフォニア…バロック時代、イタリアから来たスタイルで、幕開け、序曲などの導入的性格の器楽曲。オペラ、オラトリオ、カンタータなどに用いられた。時代により内容やスタイルは異なる。

☆参考文献「標準音楽辞典…音楽之友社」「讃美歌 21…日本基督教団出版局」「讃美歌 21 略解…日本基督教団出版局」「讃美歌…日本基督教団出版局」「J. S. バッハ音楽全集…葎文社」「バッハ作品総目録…白水社」

Violin I

Violin II

Viola I

Viola II

Basso Continuo

6

7

8

9

10

11

12

13

14

復活祭の賛美歌を元にしたコラール前奏曲、“キリストは死の縄目につながれ給いしが (BWV625)”と“われらの救い主なるイエス・キリストは (BWV626)”は、バッハのオルガン小曲集に収められています。

“キリストは死の縄目につながれ給いしが”は、ソプラノに賛美歌のメロディーが、ほとんどそのまま置かれています。1小節目に現れるバスの下行音型を、H.ケラーは、「重い石がキリストの墓から転がり去ることを象徴している」と解釈しています(譜例1-①)。このモチーフは、バスや他声部にも全曲を通して用いられています。この音型に続くバスの1オクターブの上行跳躍や、曲中のアルトとテノールの10度の上行跳躍は、キリストの復活を表しています(譜例1-②、2-①)。また、シンクペーションの半音のモチーフ(譜例1-③)や、バスの半音階で上行する音型(譜例2-②)は、痛みや苦しみのモチーフと言われ、その部分には「罪のために死に渡され」という歌詞がつけられ、十字架の死を表しています。曲の最後、「ハレルヤ」という歌詞のところには、アルトとテノールに ♩ ♪ というリズムが交互に用いられ、復活の喜びを表しています(譜例3)。

“われらの救い主なるイエス・キリストは”も、賛美歌のメロディーはそのまま置かれています。12/8拍子のジークという舞曲により、復活の勝利を表しています(譜例4-①)。跳躍して上行する音型が各声部に多く用いられていますが、これも“キリストは死の縄目につながれ給いしが”と同じく、復活を表しています(譜例4-②)。H.ケラーは、この跳躍の後のタイによって続く8分音符の下行音型は、死の束縛を意味し、その後、高く上行する4分音符は、死に対する勝利を表すと解釈しています(譜例4-③、④)。また、曲の途中、臨時記号のシャープ(♯)が多く用いられている部分があります(譜例5)。♯はドイツ語でクロイツ(十字架)と言います。ですから、♯を多く用いることにより、キリストが私たちの罪のために十字架で死なれたことを強調しているように思われます。

コリント人への手紙第一 15章 56-57節には、「死のとげは罪であり、罪の力は律法です。しかし、神に感謝します。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。」とありますが、この2曲のコラール前奏曲は、キリストが十字架で死なれ、復活し、私たちに勝利を与えてくださったことを、力強く、音楽言語によって語っています。

譜例1

主 は 死 - に つ な が れ

譜例2

譜例3

ハ レ ル ヤ

譜例5

譜例4

イエスはすくいぬ - し

\*カントライ創立 50 周年感謝企画のためにお祈りください

1973 年に創立されたカントライは今年 50 周年を迎えました。

主の驚くべき御業と多くの皆様の祈りとお支えに感謝して下記を計画中です。

お祈りに覚えて下されば幸いです。

記念誌発行 ...40 周年記念誌の続編として小規模冊子制作。

記念演奏配信 ...新たな賛美を録音し、ホームページ上で配信。

♪2023 年 3 月 オンラインコンサート報告

2023 年 3 月 24 日 (金) J. S. バッハ 〈ヨハネ受難曲〉 聖書朗読とコラール、ショートメッセージによるオンラインコンサートは、今回も更に多くの皆様にご来場いただき、主の受難を覚えることが出来ました。カントライとしても初めての「アカペラヨハネ」でしたが、良い経験となりました。

ご来場、ご協力いただいた皆様に感謝いたします。願わくば次回は対面での「ヨハネ」でお会いしましょう！



ホームページの QR コードです。ご利用ください。

事務局から

☆ 活動予定

6 月 10 日 (土) 前橋キリスト教会チャペルコンサート

7 月 8 日 (土) @九十九里教会演奏会

\* 今後の状況によって変更の可能性がありますので、ご確認をお願いいたします。

☆ 献金 (2023 年 3 月 - 2023 年 5 月) ( ) 内の数字は件数です。

尊い献げものをありがとうございました。感謝をもってご報告いたします。(敬称略)  
<賛助会>

(教会) 前橋キリスト教会(3)、宇都宮聖書バプテスト教会

浦和福音自由教会(3)、東京聖書教会(3)、長津田キリスト教会(2)

北栄キリスト教会(3)、札幌希望の丘教会

(個人) 潮田徹、飯島勲・千雍子(3)、池田憲生・未知、高張美恵子(1)

大嶋清、塚本志津、橋本小百合

<献金>

(教会) 湘南ライフタウンキリスト教会(2)

(個人) 団員

編集後記：少しずつコロナ前の状態に戻りつつありますが、カントライも 4 年ぶりにコンサートを行うことができました。今後も主のご計画に従ってまいりますようにお祈りください。(事務局)